



# むぎの郷

October  
2014

発行/麦の郷情報管理委員会  
〒640-8301 和歌山市岩橋643  
TEL(073)474-2466 FAX(073)473-0430  
<http://www7.ocn.ne.jp/~ichibaku/>

“麦の郷とは” 住民のニーズから生み出され、  
住民の手によって育てられる

ソーシャルファームピネル/くろしお作業所/くろしお作業所分場/  
麦の郷訪問看護ステーション/麦の郷居福祉事業所/はぐるま共同作業所  
/はぐるま共同作業所 和の杜/けいじん舎/麦の郷印刷/はぐるま共同  
作業所 ラ・テール/障害者就業・生活支援センター「つれもて」/  
ホームヘルプ麦の郷/麦の郷 和歌山生活支援センター/麦の郷紀の川・  
岩出生活支援センター/ハートフルハウス 創/おぎピース/障害児者  
サポートセンター「麦の郷」/こじか園/第二こじか園/こじか親子教室  
/麦の郷高齢者地域生活支援センター/ソーシャルファームもぎたて/  
事務所/麦の郷障害者地域リハビリテーション研究所

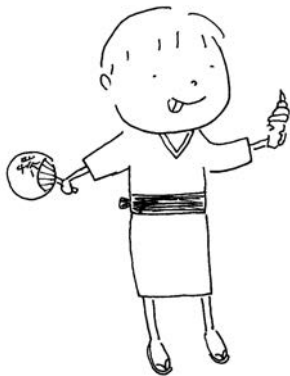


きょうされん 第37回全国大会 in かながわ

きょうされん大会 IN かながわ 9.22(月) 23(火)



アート工房 四季の郷  
「かかしコンテスト」に初参加



わされん運動会 10.9 (木)



## 私たちのめざすもの ~麦の郷4つの理念~

- 1).麦の郷は、日々学び、育み、発信し続ける人材を育成し、地域福祉の発展を目指します。
- 2).私たちは、ものづくりを通じて障害のある人と地域の共存を実現し、互いに豊かになる実践を目指します。
- 3).私たちは、社会的不利の状態におかれている人々の課題を解決するために、広範な人々をつながりをもとに社会変革をめざします。
- 4).麦の郷は、全ての人々が平和で安心して暮らせる社会づくりのために人の輪を紡いでいきます。



きょうされん  
**第37回全国大会**  
**IN かながわに参加して**

9月22日(月)23日(火)に、神奈川県横浜市で開催された「きょうされん第37回全国大会 in かながわ」に参加してきました。2017年度まで4年間にわたり「相談・支援分科会」を担当することとなり、今年度はピアサポーターの川口弘恭さんと一緒に発表することになっていたのであります。

「相談・支援分科会」では、最初に東京都府中市にある「社会福祉法人あけぼの福祉会 地域生活支援センターあけぼの」の石見所長と当事者の岡本さんの発表がありました。その後「卒をこえる相談・つって出る支援とは」当事者や地域の声に寄り添ってというテーマで川口さんとも発表しました。

麦の郷が設立当初から大切にしてきたことは、「障害のある人が地域で働き、安心してゆたかに生活をするために、当事者の声に耳を傾け、当事者とともに運動する」ということです。

その理念は、「相談・支援」においても何らかわりありありません。むしろ、ひとりの精神に障害のある当事者の「ほくも、働きたいよ」という「ねがい」相談」から、精神障害者の働く場所をつくるという運動がはじまっ



たことを考えると、「相談・支援」は障害のある人が働く作業所や生活するグループホームにおいても必要不可欠であるといえます。

発表の後の質疑応答で、「作業に追われる中で、じっくりと相談する時間をとれないことが悩みです」とおっしゃる作業所職員さんがいました。机を挟んで向かい合うだけが「相談」ではなく「最近、仕事中に上の空やな」「グループホームのゴミを残すことがふえた」という、ちよつとした変化に気づき障害のある人の「声なき声に寄り添える」のは、ともに汗水流して働く作業所職員や、寝食をともにするグループホームの世話人、夜勤担当職員です。日常の何気ない会話や表情ひとつからも、なかまの思いや願いをキャッチして、希望をかなえるお手伝いを一緒にできればと思います。

当事者の川口さんは、仕事のストレスから病気になる自宅に長期間ひきこもっていたことや、支援センターの職員が訪問に行ったことをきっかけに地域活動支援センターにつながったこと、精神に障害のある人のピアサポートの会「カーム」に出会って、「ひとりじゃない」と思える居場所や共感しあえる仲間ができた喜びを語ってくれました。今後は、和歌山県の主催する「地域移行ピアサポーター研修」にも参加し、「昔の自分のように苦しい思いをしている後輩のために、自分の経験を役立てたい」という思いを新たにしています。「カーム」の会としても、地域の中高生に向けて体験談を発表し、精神に障害のある人を取り巻く状況を知ってもらおうという啓発活動をしていきたいと考えています。

最後に、川口さんが分科会で発表した詩を紹介させていただきます。



『絆』  
 私の声を聞いてほしい  
 あなたの話を聞かせて下さい  
 なぜでしょうか  
 自分に問いかけるのはやめたい  
 私の歩いて行く道はどこですか  
 それは君の心の中にある  
 歩きだそう 君の足で  
 前を向き胸をはって  
 弱い自分にさよならするのは今日  
 ふりしほってゆこう 大きな勇気を  
 人は一人では生きてゆけない  
 気付いて下さい 仲間の絆を  
 差しのべて下さい 君の手を  
 差しのべて あげたい 私のこの指を  
 愛があれば きつと大きなことができる



(窪原)

**麦の郷の現場から：  
 仲間と共に育ちあう  
 管理者研修会**

9月10日、麦の郷教育研修委員会主催の管理者研修会が麦の郷の地域交流室にて25名の参加で行われました。この研修は、今年の2月22日に行われた職員研修会において、立命館大学の山本耕平教授からの提案にこたえて取組む準備段階の研修会でした。前回の研修会において「職員の人権意識や虐待防止の意識と実践力を高める研修」で「待ち、ほめ、その子特有の発達スピードを考えて課題を与えなければならぬ。挑戦を励まし、達成の喜びを保障しなければ

ばならない。そして挫折のときはその苦しみを共にし、責任転嫁をしないように原因を分析し、耐える強さ、再度挑戦する勇気を与えることが求められる(中沢正夫、1999)と引用し挑戦の励ましとは  
 達成の喜びの保障とは  
 挫折のときに苦しみを共にすることは  
 責任転嫁をしないような原因分析とは  
 と各現場での議論とその報告会を、投げかけられていました。

今回は、管理者を対象に、まず3班に分かれてから、導入ワークショップとして割箸を利用したゲームを行い、リラックスして職員間の交流と学習に取組めるようにしました。写真はその時のかっこいいキメポーズです。みんないい顔をしています。

リラックスしたところで課題の提案です。普段の現場での様子を振り返り課題や問題に集団で討議を、職員が一人ぼっちになってないか、問題の抱え込みをしていないか、普段の様子を引き出すための取組の提案がされました。それが振り返りシートです。職員の日頃の思いや、悩みを共有することで人権意識の向上や虐待防止につながります。振り返りシートでは普段のしんどい、つらい、どうしたらいいかわからない等、悩んだ、苦勞した気持ちを自由に素直に表現できるように工夫しています。①誰との関わり、②どんな内容、③打開できるところがあれば報告することもできるようにしていま



す。学習会の中では③については、解決・打開ができないからの悩みではないかということとで、書くスペースはあるが書かなくてもいいように表現を変える工夫もしているのでは、など意見が活発に出されました。この研修会を受けて今年度中に各現場で論議がされ、今後の研修会の場で報告されることになっていきます。日々の忙しさに自分を見失うことなく麦の郷は人権を尊重し、虐待防止に努めていることを確認しました。(森責)

**WDF総会と  
 フォーラムに参加して**

9月の下旬にしては少し肌寒く、ジャケットが丁度いい一日でした。

2014年9月20日(土)、和歌山中央コミュニティセンター 1F会議室(小)において、WDF(和歌山障がいフォーラム)の総会・フォーラムが開催された。和歌山県下のすべての障害者団体、支援者団体、家族会等で構成されているWDFとは身体障害、知的障害、精神障害の3種類の障害が一元化され、統合的に活動しようとするものである。その総会が今回初めて開かれたのであるが、なかなか難産の結果としての開催だといえる。それだけに今回の総会、及



びフォーラムの成功はひとしお嬉しいものがある。総会の議事進行は滞りなく行われ、議案はすべて承認された。後半のフォーラムであるが、6団体が15分単位で述べられ、形式としては意見書を発表するという形をとった。意見書であるが、意見書発表団体と意見書提出団体に分けられ、各6団体ずつあり、意見書発表団体を紹介すると、和歌山県聴覚障害者協会、和歌山県精神保健福祉家族会連合会(和福連)、和歌山県自立支援法基本合意の完全実現をめざす和歌山の会(めざす会)、和歌山県盲ろう者友の会、和歌山県社会福祉士会の6団体である。各団体の主張はそれぞれ個性的なものがあるが、聴覚障害者協会では、言語に手話を含ませ、それを法律化するという主張、和福連では一番最後に発表したのだから、海南市で起こった母が自分の子を絞め殺して自分も死のうとした悲劇的な事件を説明し、わせいれんでは、30年も遅れているという精神障害者施策、又、日本に生まれた不幸、めざす会では、自立支援法及び総合支援法への怒り、盲ろう者友の会では重複障がいや独立した障がいとして義務づけてほしいという発表、社会福祉士会では障がいを持つ人も他の障がいを持たない人もすべての人々が人間としての尊厳を有する社会を求め、6団体すべてがフォーラムの理念に沿って発表された。国連・障害者権利条約、障害者差別禁止法を謳うWDFとしては、このことを踏まえての主張、発表であった。そして、これからのさらなる発展を望んで終わりの言葉とした。

(井内)

わかれん第2ブロック

# なかまのスポーツ交流会 ポッチャ

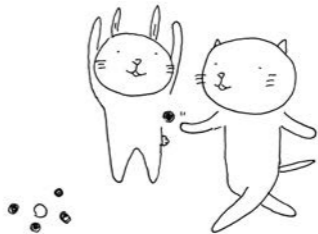
9月12日、和歌山県子ども・女性・障害者相談センター体育館で行われた、わかれん第2ブロック学習交流部主催、『なかまのスポーツ交流会』に支援センターチームとして参加しました。

ポッチャを体験するのは初めての私達は最初にルール説明を聞きまし。ポッチャとは障がいのある方も楽しお事ができ、パラリンピック種目になっているス



ポッチだそうです。一人二つずつ、赤・青のボールを持ち、3名がチームになります。ジャンケンで決めた先攻のチームがジャックボールという白いボールを投げるのとして、ジャックボール目掛けて各チームがボールを順に投げていき、白のジャックボールが一番近い色のボールのチームが勝ちとなります。

説明を聞いた後練習をして、チーム戦にチャレンジしました。強弱を考えながら投げたり転がしたりするのですが、なかなか思う所にボールは行ってくれません。支援センターチームは残念ながら入賞はできませんでしたが、一位、二位のチームにはくろしお作業所さんの商品がプレゼントされました。笑顔や少し悔しそうないろんな表情での閉会式でした。最後になりましたが、普段会う事の出来ない沢山の作業所のメンバーさんやスタッフさんと一緒に楽しい時間を過ごす事ができました。また、こういう機会を作って下さったわかれん第2ブロック学習交流部及び関係者の皆様本当にありがとうございました。



(河本)

## 第2回むぎピース 「アート工房三人展」が 開催されました



アート中心の作業所「むぎピースアート工房」の作品展が、8月24日(日)〜30日(土)に、アートサポートセンターRAKU(みその商店街麦の郷総合支援センター)にて開催されました。昨年も好評の作品展でしたが、今年は仲間も一人増え「三人」の作品展となりました。サブタイトルの「それぞれが、感じる世界」のとおり「うえちゃん、きたやまよしこさん、島津マナミさん」三人それぞれの個性が発揮される展示とな



りました。うえちゃんは、昭和レトロな懐かしさを感じさせる色鉛筆画/きたやまさんは、今回初めて挑戦した刺繍や織りの作品を中心に/島津さんは、初公開となった鉛筆による抽象作品を出展されました。昨年を上回る187名の来場者があり、おぎピースの作品展への期待の高さも感じられました。



(島)

### ★感想のメッセージより

- ・うえちゃんー風景、人々の表情がいきいきとして、たのしいですね。
- きたやまさんーやさしい色づかい、すばらしいです。
- 島津さんーとてもうつくしいすてきな世界観です。
- ・それぞれの、その人の雰囲気が出ていて見ているのですね。私にはとうい見えない風景?何とも言葉にならない異空間!感動をありがとうございました。
- ・マナミさん いつも感じている、見えている世界を再現してくれたんですね。見えているのですね。私にはとうい見えない風景?何とも言葉にならない異空間!感動をありがとうございました。
- きたやまさん 柔らかい色と形。私もマネしたくなった。美しいしほんわか。
- うえちゃん 昔のドラマを思い出す…。楽しさが伝わって来ました。



## 福島を応援する カンパジデザインに 採用されました!

東日本大震災そして福島第一原発の事故が発生する中、南相馬市の多くのみなさんは避難を余儀なくされました。そんな中、「つながり&(むげん)ふくしま」という東日本大震災の復興プロジェクトとして生まれた南相馬ファクトリーがあります。南相馬市の7つの作業所と楢葉町の1つの作業所がひとつになり「復興支援カンパジ」をつくる仕事を興してあられます。

そんな南相馬ファクトリーさんが初の試みとして取り組んだバジデザイン公募で、麦の郷つつしんの挿絵&との猫さんの絵葉書でもおなじみの殿垣内能範さんの作品が2点採用されました。今回のバジデザイン公募には600点を超える作品応募から100点のデザインが選ばれました。一般のデザイナーも含めた多数の作品の中から、障害者アーティスト殿垣内さんの作品が選ばれたことは、たいへん嬉しいことです。

です。今回採用されたデザインは、カンパジとマグネット(各5種類のサイズあり)としてネット販売されています。カンパジを1個つくることで、作業所の仲間たちの工賃収入になっているこのことです。(ほかの商品等詳細は、南相馬ファクトリーで検索してください)

バジ購入をおして、「ふくしま」を応援しましょう!なお、この猫さんデザインのバジ(マグネット)は、アートサポートセンターRAKU(みその商店街麦の郷総合支援センター)でも販売しています。



★南相馬ファクトリーホームページに掲載されている殿垣内さんのメッセージをご紹介します。

このたびは、選考いただきありがとうございます。震災にあわれれ今もお苦しんでおられる方々が、この猫ちゃんを見て少しでも「ホッ」と、心安らいで、元気になっていただければ幸いです。



### 今年も旅行で はしゃいできました！

くろしお作業所分場  
なかよし班



10月9日・10日の2日間、旅行に行ってきました。2つの台風の間を縫って、出かけた旅行は全員が笑顔、笑顔の連続でした。

まずは京都水族館と梅小路蒸気機関車館の見学。オオサンショウウオに「かわいいー！」と気持ち悪い！の賛否両論の歓声が。お土産ショップでは買い物好きの仲間が目、早くもキラキラ輝いていました。

蒸気機関車に乗って、警笛を聞いて、レトロな気分も味わってきました。

旅館では客室にも露天風呂があり、嬉しくてお部屋で入浴した仲間もいました。丸い五右衛門風呂のような形のお風呂に「満悦でした。」

宴会では仲間さんが恐縮するほど小まめに、ご飯やお茶くみをしてくれる仲間がいて、思わず「ここに就職する？」というほど。カラオケで歌って踊って、笑って、カメラのシャッターを切つて、大いに盛り上がりました。

2日目はミシガンクルーズ。水が怖い仲間は、船内で観光案内を聞いたり、演奏を。他の仲間はデッキに出て、飲み物を片手におしゃべり三昧。それぞれの形で楽しんでました。

最後はガーデンミュージアム比叡でキーホルダーづくり。何か体験をしたいと話していた仲間

間が、かなり凝った押し花キーホルダーを作りました。配色だけでなく、花や葉の大きさを微調整しており、みんなの倍の時間をかけて仕上げました。

日常から離れ、いつもと違う仲間の様子を知らることができ、とても楽しい旅行となりました。



(池上)

### 恒例の一泊旅行

はくろま共同作業所 ラ・テール

10月17日・18日にラテールのみんながとても楽しみにしていた長野県への一泊旅行へ行ってきました。朝8時30分にバスに乗り込み、長い旅の始まりです。高速道路に乗ると早速みんなはお菓子を開けて交換し、楽しそうに話をしながら一路東へ。サービスエリアに寄る度にフランクフルトなどを食べて、途中岐阜県で昼食をとり、最初の目的地松本城に到着したのは16時過ぎ…。皆で天守閣への急な階段をビクビクしながら上ってまた下りてくると、日暮れも近かったので信州の寒さに「寒いー！」と叫んで、旅館につくと皆すぐに温泉に飛び込みました。そして19時。一番楽しみにしていた宴会の

始まりです！大盛り上がり！と思いきや、懐石料理だったので食事中はみんなとても静か。

食べ終わってからカラオケで歌え踊れの大宴会！田中理事長の華麗なカスタネット捌きやクワッカーが鳴り響き大盛り上がりで終わり、熱が冷めない皆はラウンジを貸しきって二次会へ。23時まで歌いまくるのです。そして翌朝は地元の人も「寒い」というほど冷え込み、朝風呂に入ってから温まってからしっかり朝食を食べて出発！2日目は標高2000mにある美ヶ原高原美術館でハイジ展や美術品、広大なアルプスの山々を見て楽しみ、みんな両手にしっかりとお土産を買い込んで和歌山へ。終わりが近づくと、車内で「もう旅行も終わりのやなあ」と寂しそうに話す人も居れば、既に来年の旅行の話で盛り上がりしている人も…。食べまくり歌いまくりの今回の一泊旅行。また一つ、皆で喋って盛り上がる、楽しい思い出が増えたのでした。



### 第16回 麦の郷・ くろしお夏まつり

くろしお親子教室

晴天の中、3年ぶりに「麦の郷・くろしお夏まつり」を開催することができました。山口地域の夏祭りとして、16年目を迎えました。開催に際しては、山口地区の方々、薬師寺霊園、関西電力の組合員の方々や麦の郷に関係する事業所の支えがあつて行うことができました。

また、くろしお園では2年前、園児の命を落とす大きな事故を起こしてしまいました。それでもくろしお園の存続を許し、変わらぬ支援をいただいた、玉置さんのご家族のご支援があつたからこそ、実現した夏祭りだったと思えます。本当にありがとうございます。

お祭りは、第二くろしお園の学童部の子もたちによる和太鼓から始まりました。日頃、練習している曲を披露し、息の合った格好良い和太鼓演奏でした。それから、くろしお園、第二くろしお園、くろしお親子教室の子もたちが日ごろから楽しく踊っている「ワッショイ ワッショイ」の踊りをしました。学童の子もたちのパレード演奏があつたり、山口地区の婦人会の方々が中心で盆踊りを踊つたり、大抽選会もしました。夜店では、たくさんの出店が並び、おいしい食べ物や、金魚すくいなどの楽しいゲームのお店も多数ありました。

最後に、少し薄暗くなつてから、OHPのお話し「タンタンのハンカチ」を上映し、大きなスクリーンに映し出されたお話しに子どもたちは、真剣な顔で見入つ



ていました。また、山口地区では、以前から問題となつている、産業廃棄物最終処分場設計画があります。和泉山脈から湧き出るきれいな水が汚染され、紀の川へ流れていくと、和歌山市の生活用水にも大きな影響を与えます。くろしおでは、子どもたちの安全な生活が保障されるように、建設計画反対運動に協力することにしました。そこで夏祭りのブースの中に反対署名コーナーを設置し、山口地区産廃問題対策委員会の代表の栗本さんに今の現状を報告して頂きました。これからも協力していきたいと思えます。



今年の夏まつりは3年ぶりということもあつて、当日は参加者が500名以上になりました。この夏まつりは、在園児や、卒園児、そして地域の方々がとても楽しみにしていたに笑顔が広がり、とてもほっこりした夏のひと時となったことだと思います。今後も、みんなが楽しめる夏まつりを目指していきたいと思えます。

今年度の夏まつりは3年ぶりということもあつて、当日は参加者が500名以上になりました。この夏まつりは、在園児や、卒園児、そして地域の方々がとても楽しみにしていたに笑顔が広がり、とてもほっこりした夏のひと時となったことだと思います。今後も、みんなが楽しめる夏まつりを目指していきたいと思えます。

(浦上)

### 交流会「絆」

くろしお作業所

9月10日、くろしお作業所に田辺市のはまゆう作業所さんと神戸市のかがやき神戸ぐりいさんを招いての交流会をしました。

はまゆう作業所さんとはエゴ班で栽培する大



(中村)

根を納品させて頂いており、今年の5月にも田辺で交流会をさせて頂いている関係です。同じくかがやき神戸ぐりいとさんもクリスマス会やつながり文化祭にも来て頂き、なかまや職員さんともすっかり顔なじみになっています。

交流会では、べりいとのなかま達が演じるクワンパフォーマンスを見せて頂きました。初めて見るクワンパフォーマンスに、はまゆう作業所のなかまも職員さん達も凄く喜んで楽しんでくれました。その後、昼食のたこやきをエゴ班のなかま達と一緒に食べながら、お互いの仕事や作業所の事など話し合いました。たこやきを作ってくれたのはたこ焼き処「かくれんぼ」さんで、3年前に近鉄紀州路大物産展と一緒に出店したのをきっかけに交流させてもらい、今回「大好きななかまのためなら」と協力していただき、食べ始めるとみんな「おいしいー」と絶賛していました。その後はOXクイズをしたり、沖縄音楽に合わせて全員で踊つたりして輝くばかりの笑顔で盛り上がりました。

今回の交流会は同じ作業所同士や地域のお店の方々も参加しての交流で、今まで以上にお互いの『絆』が強くなったように感じました。

『今度はどこで交流会する…』と今後も『絆』で結ばれた交流会は続き、なかま達が楽しむ姿が目に見えてきます。

## 助成ありがとうございました

### むぎピース



惣菜・シフォンケーキ作り、アート活動と、メンバーも増え、スペースが狭くなり限界が来ていました。このたび、共同募金会の助成を受けて…増築リフォームをしました。活動スペースが広がり、メンバーたちの笑顔や個性のあふれるむぎピースになることでしょう。ありがとうございました。今後も応援よろしくをお願いします。

### むぎピース ポングリ図画耕作所

社会福祉法人 和遊協社会福祉事業協力会様よりエアコンの購入に助成をいただきました。快適に過ごすことができます。きっとすばらしい作品も生まれることでしょう。ありがとうございました。



## くろしお送迎 田中さん 優良運転者表彰

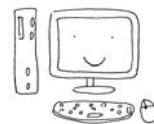
くろしお作業所では、毎朝早くから、なかまを迎えに行ってくれる送迎の人達があります。送迎の人たちは、なかまと送迎中の関わりを大切にしてくれたり、保護者の方との連絡や、送迎中のなかまの様子を伝えてくれる、無くてはならない存在です。

そしてこの度、和歌山警察署並びに交通安全協会が主催する、「交通安全功労者・優良運転者等表彰式」があり、田中耕次さん（高齢協所属）が22年間無事故・無違反で、銅賞を受賞しました。いつも安全運転で、なかまの送迎ありがとうございます。これからもよろしくをお願いします!!



## くろしお作業所 分場 パソコン寄付お礼

和歌山県社会福祉協議会を通じて、オーグス総研様（大阪ガスグループ「はじまるくんパソコン贈呈プログラム」）より、パソコンを寄贈いただきました。早速、業務にて活用させていただいています。オーグス総研の皆様、ありがとうございました。



## むぎのひと



紀の川・岩出生活支援センター  
松岡 裕子

紀の川・岩出生活支援センターの松岡です。2009年7月からお世話になり、ハートフルハウス創で4年、相談支援で2年目になります。当初は福祉の「ふ」の字もわからない素人で日々戸惑っていましたが、出会った多くのなかまやスタッフに支えられ、最近少しずつ現場で一緒に悩み、寄り添うことの意味が理解できてきたかな？と思えてきたところです。

毎日、生きづらさを抱えながら地域で暮らしている方たちが、少しでもこころ豊かに暮らせるようにと福祉サービス等の調整や相談、訪問を行っています。その中で、人と人とのつながりの大事さに気づき、地域でネットワークを広げることの大切さを感じています。

そして、地域活動支援センターでは、日中の居場所に通うなかまとのお話や、レクリエーションで一緒に楽しませてもらい、ともに笑い元気をもらっています。まだまだ未熟な私ですが、これからも横のつながりを大切に、なかまとともに成長していきたいと思っています。

平成27年(2015年)  
**未熟**  
**年賀状印刷**  
ご注文受付中!!  
  
ご注文はFAXでもOK!

**年賀状印刷  
承ります**

**麦の郷印刷**  
TEL  
073-464-3707  
FAX  
073-464-3708